

環境心理生理運営委員会 2009年度第3回 議事録（担当：秋田）

日時：2009年9月25日 17時～19時

場所：建築学会 会議室

出席者：大井尚行（主査）、槇究（幹事）、秋田剛（幹事）、讃井純一郎、宗方淳

前回議事録

- ・特に意見なし → 承認された。

報告事項

1. 環境工学本委員会報告 2009年度第3回（資料）

報告事項

- ・報告事項について、讃井委員より報告があった。
- ・特に問題点・議論になる点はなかった。

審議事項

- ・業績候補推薦について
 - ・大賞：木村翔先生の名前が候補としてあがっているとのこと
 - ・文化賞（会員外）：特になし
 - ・教育賞：安岡正人先生（音環境運営委員会・電磁環境運営委員会から）
 - ・候補があればあげる
- ・2010年度技術部門設計競技の課題 → なし
- ・2010年度大会（北陸）
 - ・オーガナイズドセッション
 - ・次回、タイトルと募集要領を出す
 - ・研究協議会 → 佐土原先生 環境工学分野の研究成果を社会に広く活かすために
 - ・どのような研究成果を提供したいのか？（環境工学研究者の立場から）
 - ・ユーザーの立場からのニーズ、環境工学への期待と課題（研究成果ユーザーの立場から）
 - ・研究懇談会 → 讃井先生 人間・社会にとって望ましい環境とは：環境工学研究の基本的枠組みを再考する
 - ・望ましい環境のとらえ方の現状と将来（環境要素ごと）→講演者の候補について議論した。
 - ・音 > 伊勢先生、上野先生
 - ・熱 > 松原先生、久野先生に紹介してもらう
 - ・空気 > 山中先生に紹介してもらう
 - ・光 > テーマ見て、ほかとの兼ね合いで決める（候補はたくさんいそうである。）
 - ・環境設計からみた望ましい環境とは？→講演者の候補について議論した。
 - ・環境設計 > 三浦先生？
 - ・望ましい環境を測定するための技術とその動向→講演者の候補について議論した。
 - ・環境心理生理 > 大井先生、宇治川氏、槇先生など
 - ・趣旨説明・PDの司会→讃井先生にお願いする。
 - ・講演進行の司会→飯塚先生にお願いする。
 - ・久野先生→PDのパネラーなどで参加をお願いする→讃井先生から水を向けてもらう
 - ・（話題例）個人差・ケースバイケースへの対応
 - ・（話題例）建物用途が違えば、求められる環境の水準が違う ← 環境設計の立場
 - ・（話題例）調査技法→人間-環境モデル 理論
 - ・（話題例）人間にとっての快適性と地球にとっての快適性のバランス
- ・シンポジウム実施計画について
 - ・感覚知覚シンポジウム（12月12日）→承認された。
 - ・環境心理生理チュートリアル（福岡）→承認された。
- ・環境工学者名簿について
 - ・11月18日に売り出しの予定→10月末には新版データできるらしい
 - ・名簿のデータの貸し出しはしないことになる、とのこと。
→新版が出た後は、事務局にお願いすると、事務局でシンポの案内を名簿記載者あてにメール

送付してくれる、というシステムになる。

→新版が出るまでは、旧版データを貸し出してくる。(現在までと同じやり方。)

→感覚知覚シンポジウムでどちらのやり方でやるか、決定して酒井さんに連絡する。

・運営委員会の自己評価について

→お互いの活動を知ること・情報交換が目的

→「建築学と本会の発展のための中長期計画」(村上会長時代) →Web 公開中

→各自見て、内容を把握しておくこと。

2. 小委員会活動報告

・ヒューマナイジング小委員会

・宇治川さんの話を聞く会を開催予定(讃井委員)

・感覚知覚心理小委員会

・シンポジウムの内容・日程などについて議論(秋田)

・環境心理小委員会

・チュートリアルについて検討(宗方委員)

→25日時点で77名応募あり(学生50名程度、会社関係10名程度)

3. その他

・感覚知覚シンポジウムの会告原稿が出ていないとのこと(事務局)

→実施計画書を元に事務局で案作成。

→秋田がその場でチェックして対応した。

審議事項

1. 環境心理生理チュートリアルの詳細

・設営→早めをお願いする 12時30分集合

・部屋に椅子持ち込む作業、机をどける作業が発生する。

・今後の案内希望アンケートを配布する予定。

2. 環境心理生理関係の刊行体制の立て直し

学術用語集

・活動が再開されたとの報告があった。

尺度ハンドブック

・再度、出版社のほうで企画会議にかける。

3. シンポジウム等企画について

・感覚・知覚シンポジウム(12月12日)、環境心理生理チュートリアル(11月28日)の日程・場所が確認された。

・計画系との合同企画

・計画系と環境心理生理系の違いや、計画系の研究を環境心理生理研究者が見る時と、環境心理生理系の研究を計画研究者が見る時の視点の違いについて。

・当面、企画しない方針とのこと(宗方委員)

・継続して検討することとなった。

4. その他

2010年度大会 OS について

・環境心理研究の実践について(讃井委員)

・感覚知覚心理小委員会から、たとえば複合環境(秋田)

・最大8編(1テーマで) 2セッション分 最小4編

次回以降 日程案

11月18日(水)、1月22日(金)、3月16日(火) いずれも17時30分～